

大阪万博で故・松本貴弘博士と再会



テーマ館「生命の樹」・意識保存装置の全貌。

「皆さん、こんにちは。まさか、このような形で再び皆さんの前にお目にかかれるとは思いませんでした。しかし、これは現実です。私の意識はここにあります。」
会場には、どよめきが起った。それは紛れもなく松本博士の声だった。生前の肉声と寸分違わぬ、その声は、装置が

大阪千里丘陵で開催中の日本万国博覧会において、人類の科学史にその名を刻む歴史的偉業が達成された。3年前に完成した「意識保存装置」を用いた公開デモンストレーションにおいて、惜しまれつつも他界されたノーベル物理学賞受賞者、松本貴弘博士（享年72）の意識との対話が実現。会場は驚きと感動、そして興奮のつぼと化した。
午後2時、万博会場中央のテーマ館「生命の樹」の室内展示室は、この歴史的瞬間を一目見ようと集まった観衆で埋め尽くされ、各国の報道陣がその様子を世界中にリアルタイムで伝えていた。普段は生命の進化の歴史を辿る展示物が並ぶこの空間は、この日のために未来的なステージへと様変わりしていた。ステージ中央には、高さ3メートルほどの意識保存装置が静かに鎮座している。その洗練されたデザインは、科学の粋を集めた芸術品のようだ。
「皆さま、本日は歴史の証人となつただくことを光栄に思います。」
司会者の声が会場に響き渡ると、スポットライトが装置開発責任者である国立精神物理学研究所の佐々木隆司所長を照らした。佐々木所長は深々と一礼し、装置の操作盤に手を伸ばした。会場のどよめきが一瞬で静まり返る。静かに装置が起動すると、内部を満たす青白い光が徐々に強くなり、クリスタルのような外殻に複雑な幾何学模様が浮かび上がった。そして、会場のスピーカーから、誰もが知る、あの穏やかな松本博士の声が響き渡った。
「皆さん、こんにちは。まさか、このような形で再び皆さんの前にお目にかかれるとは思いませんでした。しかし、これは現実です。私の意識はここにあります。」
会場には、どよめきが起った。それは紛れもなく松本博士の声だった。生前の肉声と寸分違わぬ、その声は、装置が

ただの録音装置ではないことを雄弁に物語っていた。まるで、博士がその場に立って語りかけているかのような臨場感に、観客は息をのんだ。中には、感極まって涙を流す者もいた。博士の声は、各国の言語に同時通訳され、地球上のあらゆる場所に届けられた。
対話の場では、松本博士が生前に取り組んでいた研究の進捗状況や、意識保存装置がもたらす未来について、具体的な見解が語られた。「私の意識は、装置の中でまさに『生きている』と言えます。思考し、記憶をたどり、そして何よりも、皆さんの問いに答えることができます。これは、死という概念そのものを揺るがすものかもしれません。」
続いて、事前に選ばれた観客からの質問がマイクを通して投げかけられた。「死後の世界は存在するのか」という問いに対し、松本博士の意識はこう答えた。
「個人の意識は、現在この装置の中に存在しています。しかし、これが死後の世界そのものなのか、それとも、我々が想像する死後の世界とは異なる次元のものなのか、それはまだ断言できません。ただ言えるのは、意識は肉体が減んでも、情報として存在し続ける可能性を秘めているということです。」
今回のパフォーマンスは、単なる科学技術の披露にとどまらない、倫理的、哲学的な議論を巻き起こすことは必至である。しかし、松本博士の意識との対話は、人類が自身の存在、そして生命の根源について、これまで以上に深く考察する機会を与えるものとなるだろう。
万博のテーマである「人類の進歩と調和」を象徴するこの出来事は、未来への新たな扉を開いた。意識を保存し、世代を超えて知識や経験を継承する。それはSFの世界だけのものではなく、現実のものとして、我々の目の前に差し出されたのだ。

意識保存装置による歴史的対話を実現

並行日本新聞

1970年(昭和45年)
4月29日(水・祝)



info@parallel-nippon.jp

号外

並行日本新聞・号外は左記サイトでもご覧いただけます。
www.parallel-nippon.jp
8月27日(水)より開催の弁天舎特別企画・シモヒロヤス個展『パラレルニッポン』にて全ての号外新聞を展示予定です。

特別広告企画 ▶ PLAY BACK 2023



2023年5月3日～14日まで、みんなの森ぎふメディアコスモス(岐阜県)にて開催された「弁天舎ブックフェア」では、実在するかに見える映像作品「弁天様」や「本に挟まる人」、表紙だけの架空の本「フェイクブックシリーズ(現在は未完文庫)」を展示。8月17日～27日には、東京都八王子市のギャラリーいちようの木の舞台を移し、多くの観客を魅了。また、10月7日～9日は、岐阜ハウジングギャラリーでモデルハウスを舞台にしたインスタレーションを展開し、メディアジャックとともとれる「岐似新聞」を実際に岐阜新聞社より発行する。様々な手法でメディアアートの可能性を表現した2023年、この年を凌駕する展覧会が「PARALLEL NIPPON」である。



弁天舎特別企画
HIROYASU SHIMO SOLO EXHIBITION
シモ ヒロヤス個展2025
PARALLEL
NIPPON
2025 8/27 WED.-9/7 SUN.
OPEN 12:00 - CLOSE 20:00
会場 | 日仏会館ギャラリー
東京都渋谷区恵比寿3-9-25
パスポートチケット/500yen(未就学児無料)